

～学びを通じた被災地の地域コミュニティ再生支援事業の取組事例～



ふくしまからはじめよう。

ふくしまからはじめよう。「東日本大震災福島県復興ライブラリー事業」

取組の基本理念

福島県立図書館は、平成23年3月に発生した東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故と、それに伴う県内の被災・復興についての関連資料を、「ふくしま」に関する情報の収集機関として、また、未曾有の災害を目撃した被災者として後世に残すことが使命であるという考えに基づき、これらに関する資料を収集・保存する「東日本大震災福島県復興ライブラリー」を平成24年4月より開設し、県民の学びを支援している。

取組概要

<福島県立図書館における取組>



「復興ライブラリーコーナー」

災害記録の保存と県民への情報提供のため、資料の収集に努めている。ブックガイドを作成し、職員が収集した資料を読んで感じたことを県民に伝える活動も行っている。また、資料やパネル等の展示セットを県内外の図書館に貸し出す出張展示を行ったり、県民から資料の寄贈を受けたりして、活動の充実に努めている。



<避難を余儀なくされている学校への支援活動>

県内では、相馬地区や双葉地区を中心に、地元を離れ他市町村で教育活動を再開した学校も少なくない。それらの学校に移動図書館が定期的に巡回し、図書館活動の充実のため図書を貸し出し、協力援助を行っている。



会津若松市に避難している大熊町立大熊中学校への巡回



川俣町に避難している飯館町立小学校への巡回

<移動図書館「あづま号」の巡回>



移動図書館「あづま号」

移動図書館「あづま号」と協力車が、市町村立図書館を巡回し、情報の収集・提供や運営に関する相談や資料の相互貸借、図書館活動の促進・読書グループの育成に当たっている。また、防災教育や放射線教育の充実のため、市町村や学校への資料の貸し出しを積極的に行い、児童生徒、地域住民の防災・減災意識の向上に寄与している。

<仮設住宅等へ出張貸し出し>



自治会の皆さんとの交流活動

福島県には、役場機能ごと他市町村へ移転している町村があり、県立図書館では、そういった町村と連携し、仮設住宅等へ図書コーナーを設置し、職員が直接出向いて、読書活動による復興支援や新たな地域コミュニティの形成に向けた取組を進めている。



成果と課題

大震災から3年を経過してもなお、福島県内では13万人あまりの県民が避難生活を余儀なくされている。今回の事業を通して、仮設の住宅や学校における読書環境や本を通じた学習環境の整備を進め、子どもはもとより、大人も含めた県民の心の復興を後押ししてきた。市町村図書館や公民館図書室の貸し出し状況も、震災後に比べ大きく伸びている。今後は、被災自治体の復旧段階に格差が生じ始めている現状を捉え、特に、被災地域への読書活動支援や被災・移転学校、仮設住宅等への図書館活動支援を一層きめ細やかに進めていきたい。



仮設住宅集会所の図書コーナー